

【高等学校の部】優秀賞

## 夢とふるさと

日本文理大学附属高等学校 3年

塩月 有紗

私は大分県で生まれ育ち、豊かな自然と温い人々に囲まれて成長してきました。海と山四季折々の行事、地域でかわされる温かなあいさつ。そうした日常が、私の心の中にふるさとへの誇りを育ててくれていると思います。進路を考える中で、私は家庭科教員という将来像を描くようになりました。そして、この道を選ぶことは、ふるさとの未来に少しは繋がるのではないかと思います。

家庭科は「衣・食・住・消費・福祉」といった日々の暮らしに直結する学びを扱う教科です。私は授業での、調理や被服、保育などの学びを通して、知識や技術が生活を豊かにし、人との関わりをより温かくする力を持っていることを実感しました。特に、家庭科の授業で地域の食材を使った調理実習をした際、地元の農産物や食文化を知ることが、自分の地域を大切に思う心を育てると感じました。この経験が、家庭科教員として「実生活に役立つ学び」と「地域への愛着」を生徒に伝えたいという思いの原点です。

大分県は豊かな自然と食文化を持ちながらも、少子高齢化や若者の県外流出といった課題を抱えています。地元に残る人材を増やし、地域を支える人を育てるためには、若い世代がふるさとに誇りを持ち、「ここで生きていきたい」と思える環境づくりが欠せません。私は、学校教育の中でその土台を築く役割を担えるのではと考えています。

家庭科の授業では、地元産の食材を使った調理や伝統的な保存食づくり、地域の伝統工芸や手仕事に触れる活動などを取り入れることができます。例えば、椎茸やかぼす、関あじ、関さばといった特産品をテーマにした調理実習は、地元の産業への理解を深めるきっかけになります。また、地元の高齢者を招いて昔ながらの料理や裁縫技術を教えていただく授業は、世代間交流の場となり、地域の絆を強めることができます。

さらに、家庭科教育は生活力を育てるだけでなく、防災や環境保護といった現代的な課題にも対応できます。大分県は地震や豪雨など自然災害のリスクがある地域です。授業で防災食づくりや避難所での生活シミュレーションを行うことで、生徒たちは災害時にも冷静に対応できる力を身につけられます。また、地元の食材を活用した持続可能な食生活で、エネルギーを節約する暮らし方を考えることは、環境にやさしい地域づくりにもつながります。

私は、こうした授業を通じて、生徒たちが「大分県には素晴らしい資源や文化がある」と気づき、将来の暮らしや仕事の場として地元を選ぶきっかけ作りをしたいと考えています。そしてその積み重ねが、ふるさとの人口減少や地域衰退といった課題の緩和につながると信じています。

今の私は高校生ですが、これから私は家庭科教員として、学びを通して生徒たちの暮らすふるさとへの思いを豊かにしていきます。ふるさとの未来は、その生徒たちが大分を支え、次の世代に文化や魅力を引き継いでいくことです。二つの未来は決して別々ではなく、重なり合いながら進んでいくものです。私はこれからも学びを深め、地域活動や実践的な経験を積み重ねていきたいです。そしてふるさとの未来を担う教師になりたいです。